

第 1 回半田市市民チャレンジ協働プラン推進委員会

開催日時	令和 4 年 5 月 31 日
開催場所	市民交流センター ホール
次 第	1. 委嘱状交付 2. 委員長の選任 3. 報告 (1) 半田市市民チャレンジ協働プラン推進委員会について 4. 議題 (1) 協働推進体制等 (案) について 5. その他 (1) 今後のスケジュールについて
出席者	千頭 聡 戸田 愛 榊原 宏 伊藤 里香 池田 美恵子 曾根 香奈子 小野田 靖 藤牧 実 <div style="text-align: right;">※敬称略、順不同</div>
事務局	市民協働課長 (藤井寿芳)、市民協働課主幹 (中村省吾)、市民協働課副主幹 (鳥居ひとみ)、市民協働課 (天野利紀)、市民協働課 (村瀬有佳子)
議事録	
1. 委嘱状交付	
(委嘱状の交付)	
企画部長	第 7 次総合計画において、「協働」は各分野で共通して取り組むべき手法である、ということの基本に策定しており、本年度は、その視点から、協働の評価、協働の推進について、運用の体制を整えるべく、この委員会でご議論いただくこととしております。 皆さま方の豊かなご経験やご見識により、忌憚のないご意見、ご提言を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。
(事務局自己紹介)	
2. 委員長の選任	

事務局	半田市市民チャレンジ協働プラン推進委員会設置要綱第5条第1項の規定に基づき、委員の互選により選出するものとされておりますので、皆さまからのご発言をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか
委員	千頭先生をお願いしたいと思います。
事務局	ただいま榊原委員から推薦がありました。よろしければ皆さま拍手をお願いします。
	(拍手)
事務局	それでは本委員会委員長は千頭聡氏に決定させていただきます。
委員長	今回はチャレンジ協働プランということで、堅苦しくなりすぎず思いを出し合えるチャレンジングな会にしたいと思います。宜しくお願いします。 第1回ということで委員の皆さまに簡単な自己紹介をお願いしたいと思います。
	(委員の自己紹介)
3. 報告	(1) 半田市市民チャレンジ協働プラン推進委員会について
事務局	(資料により説明)
委員長	報告ということなので、中身をよくご確認ください議題に移りたいと思います。
4. 議題	(1) 協働推進体制等(案)について
事務局	(資料により説明) あくまで事務局の素案となるので、委員の皆さまからご意見やご提案をいただきたいと思っております。
委員長	次年度以降の推進委員会の進め方について案をいただきましたが、感想でも構いませんのでご意見、ご質問はありませんか。 次年度委員の皆さまに参加頂く会は何回の想定になりますか。
事務局	協働事業の評価のための委員会を2回、委員会×庁内協働推進ネットワーク座談会の開催自体は3回ですが委員の皆さまは何れか1日のご参加、チャレンジ2030実現に向けた助言提言をしていただく会を1回、以上年間4回のご参加を計画しております。
委員	座談会について、委員によっては当日参加する課を指定できますか。
事務局	そのあたりは事務局で調整してご参加頂くイメージを持っています。5年間続くので偏りのないような調整もしていきたいと思っております。
委員長	委員の所属する団体等とは異なる分野の課と座談会をしてもおもしろいですね。
委員	庁内で職員同士のネットワークを構築するとは具体的にどのようなイメージですか。
事務局	研修等学びの場ではなく、普段の業務を離れた雰囲気の中でざっくばらんに他課と話をする機会を設けたいと思います。
委員	もともと情報共有の仕組みや場が無いのであれば、なおさらそういった場を設けることで協働推

	進のスピードアップにつながると思います。
委員長	幹部会議で参加者の勤務体制に対する配慮もお願いしたいです。
委員	職員の異動もある中で、構築された庁内横断的ネットワークが途切れてしまわないですか。
事務局	政策立案に中心にかかわる主事クラスの参加を想定しています。主事クラスは全課に配置されており、個人に帰属した業務をしているわけではなく、異動に伴った引継ぎも行われます。政策立案の要となる主事クラスに絶えず参加頂いて情報共有をし、それを所属課に落とし込み日々の事業に活かしてもらうことが狙いとなります。
委員	ネットワークを作る意義を理解してもらうところからはじめるのですか。
事務局	なぜ管理職クラスの会ではないのかは当然理解してもらいます。現場の日々の取り組みの中での情報共有をより意識したものにしたいので、最前線にいる職員にダイレクトに共有してもらう機会にしたいという考えです。
委員	幹部クラス、管理職クラスの協働推進に関する庁内ネットワークはありますか。
事務局	協働推進に関するものはありません。
委員	自らの仕事が市民協働につながるかどうかかわからずに日々の業務に追われていることが多いのではないのでしょうか。まず庁内交流から始めて意識づけをすることは大切です。参加後、課の中で共有するプロセスも同様に意識してほしいです。
事務局	庁内ネットワーク構築のアイデアの起点はクラシティの定期情報交換会にあります。担当者レベルで情報交換と自由意見交換をすることで、単体の取組が他の取組とつながるなどの成功体験があり、それを活かさないかという想いで初期案として出させていただいています。
委員	主事クラスが、極端な言い方になってしまうが、責任の無い中で自由に意見交換することが大切だと思います。
委員長	過去、所属課に関係の無い自主的な研究会がテーマを決めて議論し、市長に提言するということが半田市でもありました。そういった自由闊達な雰囲気場になって欲しいです。
委員	市では朝礼をやってはいるが、意見を吸い上げる場ではなく、往復の情報交換になっていないです。
委員長	他の市町では週に1度ほど、個々の抱える課題相談をする場を設けているところもあります。そういった形で所属課にも庁内ネットワークで得た情報を落とし込んでほしいです。
事務局	成功体験をネットワークのなかで感じたり、伝え聞いたりして、共有できるような場にしたいと考えています。
委員	主事クラスで非常に活躍している方もたくさんいます。成功事例をデジタル上で簡単に供覧できるようにし、アイデアを実行に移しやすい環境・仕組み作りが重要かと思います。

委員	(資料 2 の)協働事業の評価に関して、できていない部分に評価を与えていくよりは、成功というキーワードで、できている部分にフォーカスできるようなものにしたらいいのではないのでしょうか。
委員	行政とやり取りをすると庁内で共有できていないと感じることが多いです。座談会参加者や協働事業評価を受ける側が結果を含めてしっかりと情報共有できることで、確実に認知されて達成感を得られるような流れにしてほしいと思います。
委員	市民協働課が各課で成功している協働事例が無いが情報収集し、探してみることも必要かと思えます。
委員	協働プランにある、職員もコーディネーターになろう、協働による取組のつなぎ役になりましょうという部分がわかりません。アクションを起こす側であっていいと思います。
委員	行政がつなぎ役だけ担うということではなく、行政を含む多様な主体と主体とのつなぎ役に、職員がなると解釈しています。行政という主体と職員が文章によって混在してしまう点がわかりづらさにつながっています。
事務局	大前提として行政も主体のひとつで、主体として取り組むことも当然ありますし、職員がコーディネーターとしてチャレンジしていくべきだという考えのものと表現です。
委員長	委員には2つの役割が求められており、1つはプランの評価等を毎年していくことと、2つ目は実体として協働を進めていくために職員との意見交換をしていくということです。
事務局	プランの進捗を評価していくことで、プロセスを含めた協働の参考事例を市民・企業・団体等多様な主体にもしっかり示していきたい思いがあります。
委員	市報等にも協働事例が載ることはありますが、デジタルアーカイブとして整理されていれば利便性が高まり協働を進めるヒントになりやすいと思います。
事務局	Facebook が電子上のアーカイブにはなっていますが、発信不十分であり、今後はinstagram も活用して情報発信のあり方を変えていこうと思っています。協働事例集は定期的に紙ベースで編集していますが常時届くような発信ではないので、課題として整理を進めているところであります。
5. その他	(1) 今後のスケジュールについて
事務局	協働調査につきまして、6月中旬に各課への照会、7月中旬に取りまとめ、委員の皆さまに、7月下旬ごろに結果をメールでご連絡させていただきたいと考えています。実際の調査結果をご覧いただいた上で、次回の会議で、評価方法や協働推進の方法について、ご議論いただければと考えております。